

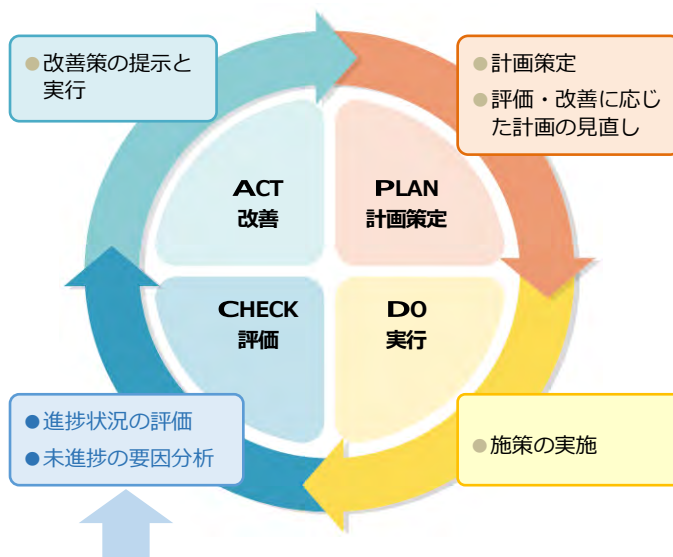
V 実現に向けて

1. 計画推進体制

(1) PDCAサイクルによる進捗管理

- 本計画の施策（事業）を効果的かつ効率的に実践していくため、PDCA サイクルにより目標の達成状況の進捗管理を行い、適切に運用していきます。
- 毎年各指標の進捗状況の評価を行っていく中で、設定した目標値と大きな乖離が見受けられる場合などについて、中間年度など必要に応じて「（仮）春日井市自転車活用推進計画に関する会議」を開催し、計画の見直しを行います。

■PDCA サイクルと評価の視点



計画全体の成果指標（再掲）	主に関連する基本方針			
	はしる	まもる	とめる	いかす
①自転車通行空間の整備延長	●			
②自転車事故件数の減少		●		
③自転車に関する交通安全ルール理解度の向上		●		
④放置自転車撤去台数の減少			●	
⑤市民の自転車交通に対する満足度	●	●	●	●
⑥健康増進、運動習慣等に関する割合				●

(2) 実施主体

①個別施策の実施主体

- 各取り組みに対する実施主体を次のようにまとめました。

方針	具体の取り組み		
	枠組み	取組	実施主体
はしる	①自転車通行空間の整備	A：自転車通行空間の整備	国、県、市
		B：個別の事故対策	国、県、市、警察
	②ネットワーク利用の促進	C：案内サイン等による自転車通行空間の利用促進	国、県、市
まもる	①自転車に関するルール・マナーの教育	A：自転車の交通安全教育等の実施	市民、市
とめる	①駐輪場の整備・充実	A：公営駐輪場での駐輪サービスの向上	市、事業者
		B：店舗・工場に併設する駐輪場の適正量確保の推進	市、事業者
		C：レクリエーション施設での駐輪場確保の推進	市
	②放置自転車対策の推進	D：放置抑制対策の推進	市
いかす	①日々の暮らしでの活用推進	A：新しい生活様式に合わせた自転車利用の推進	市民、市、事業者
	②余暇での活用推進	B：健康づくりやレクリエーションとしてサイクリングを楽しむ環境の形成	県、市